

日清製粉グループ 第1四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

[2019年3月期第1四半期連結累計期間決算]

売上高 1,412億71百万円（前年同期比108.0%）
経常利益 90億52百万円（前年同期比113.7%）

㈱日清製粉グループ本社（社長：見目 信樹）の2019年3月期第1四半期連結累計期間につきましては、企業収益や雇用・所得環境の改善等により景気は緩やかに回復しましたが、一方で、人手不足や原油価格の上昇、貿易摩擦の懸念等、景気の先行きの不透明感が増しました。

このような中、当社グループは、10年後、20年後の社会全体の構造変化を見据え、未来へのコンパス（羅針盤）として、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」を5月に策定し、新たな取組みをスタートしました。また、その通過点である2020年度を最終年度とする経営計画「NNI-120 II」を推進し、各事業において、製品・サービスの高付加価値化と販売拡大、コスト競争力強化と安全・安心の両立、成長分野への戦略投資等、スピード感を持って成長戦略の実行に取り組みました。

当第1四半期の業績につきましては、売上高は、国内製粉事業における前年の小麦粉価格改定の影響やエンジニアリング事業における大型工事の進捗等により、1,412億71百万円（前年同期比108.0%）となりました。利益面では、食品事業及びその他事業の売上高増加に伴う利益増や全社を挙げてのコストダウンをはじめとした収益向上施策により、営業利益は72億60百万円（前年同期比117.4%）、経常利益は90億52百万円（前年同期比113.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は60億83百万円（前年同期比110.2%）と増益となりました。

[2019年3月期通期連結業績予想]

当社グループは、2020年度を最終年度とする経営計画「NNI-120 II」を通過点として、5月に策定した長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」の実現に向けてグループ一丸となって取り組んでまいります。

2019年3月期の業績見通しにつきましては、第2四半期以降において広告宣伝費や研究費、人件費等の将来に向けた戦略コストの発生を見込んでおり、売上高は5,650億円（前期比104.6%）、営業利益は275億円（前期比101.1%）、経常利益は320億円（前期比100.6%）、親会社株主に帰属する当期純利益は220億円（前期比103.1%）と、当初予想を据え置いております。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向の基準を40%以上とし連続増配により配当の上積みを図る基本方針のもと、当初の予想どおり、前期より3円増額の1株当たり年間32円を予定しております。これにより、実質的に6期連続の増配となる予定であります。